

## 地域における福祉の推進 [障害]

# 「点字の世界展」と一日点字教室の開催

視覚障がい者の二大不自由は、「情報取得」と「移動の困難さ」と言われる。これらを解消するには、技術の進歩や社会制度の整備に加えて、身近な人びとの協力が不可欠である。しかし、家にこもりがちな視覚障がい者の生活は見えにくい。そこで、地域に広く視覚障がい者福祉への理解を得る端緒になればと考え、点字図書や日常生活用具などの展示や一日点字教室を三重県伊賀市内の「銀座の館」ギャラリーで開催した。

**三重県**

社会福祉法人

**伊賀市社会事業協会**

〒518-0032 三重県伊賀市朝屋739-2

TEL：0595-21-5545 FAX：0595-23-6670

### ◇法人設立年

昭和23年

### ◇法人実施事業

①経営施設（事業）数：28施設

②経営施設・事業の種類：

特別養護老人ホーム…1、盲養護老人ホーム…1、通所介護…1、在宅介護支援センター…1、障害者支援施設…1、心身障がい児施設…1、障害福祉サービス事業所…1、盲人ホーム…1、点字図書館…1、保育所…14、学童保育施設…4、医療施設…1

### ◇法人の理念・経営方針

伊賀市社会事業協会は昭和23（1948）年、戦後の混乱が続いていた時代に、市内の有志の民間人の手で社会事業を行なう任意団体として創立した。昭和27年5月に厚生大臣の認可を受け、社会福祉法人として組織変更し、多くの先人たちの努力と各方面の支援を頂戴して今日に至っている。創立後60余年を数えた当法人は、これまでの法人設立の精神「相互扶助」を土台とした基本理念「信頼・博愛・誠実」のもと、市場システムにはなじみにくい地域の中の福祉分野に深く踏み込んだ福祉事業を展開してきた。私たちは今後も福祉行政との密接な連携を堅持しつつ、地域社会からの要望を正しく受け止め、広く社会に支持される福祉事業の構築を推進する。

### ◇取り組みを実施している施設の概要

【施設名】上野点字図書館

【施設種別及び利用定員】点字図書館

### ◇活動内容

○活動開始年

平成21年

○活動の対象者

地域住民、小学生やその保護者等

○活動の頻度・時間

年1回（平成21年12月1日～10日に開催）

### ◇活動実施の背景、実施にいたった理由

上野点字図書館は昭和46年の開館以来、視覚に障がいのある人びとに点字や録音の資料を提供してきた。同時に、点訳・音訳のボランティア養成講習会や小中学校への働きかけなどを通して、視覚障がい者福祉への理解を求める活動も続けている。幸い多くの方がたのご賛同・ご協力を得て永年事業を進めてきたが、まだまだ視覚に障がいのある人びとが安全に豊かに暮らすには、課題が多いのが実状である。

折しも平成21年は、点字の考案者ルイ・ブライユの生誕200年と日本点字の翻案者石川倉次の生誕150年であった。これを記念して、マスコミでも点字やブライユに関する特集が組まれたりしていた。そこで当館では、点字が話題になったこの好機に、広く地域の方がたに、点字を入り口として、それを使用する人びとのことをより深く知っていただき、そして良き理解者になっていただければとの願いを込めて、当館の蔵書や日常生活用具などを公開・展示することにした。

### ◇実施内容

内容は、点字関連品の展示並びに一日点字教室の2つに分けられる。

まず物品展示であるが、期間は10日間で、会場は道路に面する長さ10メートルのショーウィンド形式のギャラリーである。正面にパネルを掲示し、その前に展示物を並べた。パネルの内容は、ブライユと石川倉次の紹介、点字や点字図書館の紹介、図書貸し出しの手順などである。展示物は図書や雑誌、点字を書く機器類、点字が付いている身近な品々、図書の郵送用品、視覚障がい者用地球儀など10種50点にのぼる。点字の国語辞典（全50巻）と当館で製作した点字・録音図書には、墨字原本を添えて比較できるようにした。

点字教室は会期中の日曜日に開催した。会場はギャラリーに隣接する会議室である。ギャラリーを見て点字に興味を持った人に、自由に来場していただいた。来場者には職員が1対1で対応し、点字の仕組みを説明したあと、用意した葉に自分の名前を点字で書いてもらい、それをお持ち帰りいた

だいた。また、会場内にも点字や録音の図書、機器類、遊具などを並べ、自由に手にとってご覧いただいた。

### ◇活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

ギャラリーは道路に面し、夜間照明設備があるので24時間誰でも自由に見ることができる。特にカウントはしなかったが、多くの人にご覧いただけたのではないかと思う。事前に新聞各紙に案内を出し、4紙から取材を受けて記事が掲載された。点字教室の様子は地元ケーブルテレビでも放映された。

パネルはテーマごとに担当職員が製作したが、決まったスペースで人に伝わるように表現することはなかなか難しい。それを工夫する過程において、それぞれが自分の仕事や知識について再確認ができたようである。

日曜日に開催した点字教室は、小中学生の来場を想定しての企画であった。しかし、点字に興味があるという大人単独の来場者や、会期後にも点訳ボランティアになりたいという問い合わせがあるなど予期せぬ手応えがあり、うれしく思っている。

### ◇今後の展開

街中には、点字ブロックや音響信号など視覚障がい者に配慮した設備が増えたが、それに関心を払う人はまだ少ない。また、ジャムやドレッシングの瓶、シャンプーの容器など、身近な品々にも点字が付けられるようになったが、それに気づく人もまだ少ない。しかし、一般の人びとの視覚障がいへの関心の広がりや深さこそが、視覚障がい者福祉を充実させる原動力となる。今後も、地域に向けて視覚障がい者の実状を広報できる機会を作っていきたい。

点字図書館にとって、ルイ・ブライユの生誕200年、石川倉次の生誕150年にあたる昨年は、記念すべき節目の年であった。それは同時に、新たな節目へ向かうスタートでもある。次の節目のより豊かな実りのために、微力ではあるが弛むことなく、地域に種を蒔き続ける事業を続けていきたい。



### ◇主な経費や財源及び人員等

- ・取り組みにかかわった職員数 6名  
(職種等:館長、副館長、主任録音指導員、点字指導員、校正員、貸出閲覧員)